

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

12月1日号 (No.64・今年はどうだった?号)

2011
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

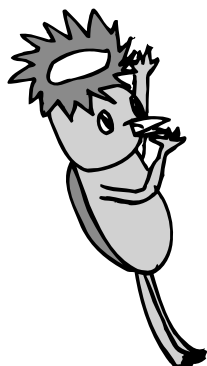
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

ミミズと仲良
しのフクロフス
きみは誰だ?



勝手にレッドデータ of 志木 (50)

みみず

近ごろ、みみずにお目にかかることが少なくなりました。いなくなってしまったのだろうか? コンクリートに埋められてしまったみみずたちはどうしてるのだろうか。

そんな時、落ち葉の下に隠れているみみずを見ると懐かしく感じるのは私だけではなさそうだ。人間にとって大切な隣人とも言えるみみずたちよ、せめて落ち葉のベッドで少しでも暖かく暮らしていけるよう願ってやまない。

(加藤健二)

9/21
(日)

こどもとおとなの自然塾 (3)

秋の夜に虫の声を聞こう

9月21日の台風で柳瀬川の河川敷も冠水し、開催日当日もぬかるみが残っていて、河川敷で虫捕りや鳴き声を聞くことは出来ない状態でした。そこで当初予定のコースを変更して、駅前から富士見橋を渡り、柳瀬川の左岸を500mほど下った、土・日にラジコン飛行機を飛ばしている水谷田んぼを目指すことにしました。

富士見橋を渡って土手を歩くと、美しいカンタンの鳴き声が聞こえてきました。カンタンはコオロギの仲間で、その美しい鳴き声から鳴く虫の女王と言われていますが、実際に鳴くのは体長13ミリほどのオスで、クズやヨモギの葉の上などで鳴きます。

田んぼの方は、樹木も少ないので、アオマツムシの声に邪魔されることなく、エンマコオロギやツヅレサセコオロギなどの鳴き声もよく聞くことが出来ました。帰りは柏町の住宅地でカネタタキ

やアオマツムシを聞きました。

今回はおとなだけ14名の参加で、こどもたちの参加はありませんでしたが、虫の声をじっくりと聞くことが出来ましたので、来年からは今回のコースに変更したいと思います。

(山崎光久)



(写真：山崎光久)

9/4
(日)

水塚の文化研究会見学会

関宿城博物館を訪ねて

水塚の文化研究会見学会の最初の見学会として、千葉県野田市を訪問し、自然・文化・水と暮らしの関わりなどを視察してきました。千葉県野田市は埼玉県と隣接した場所ですが、関宿町と合併したこともあり、南北に非常に大きい地域になっています。午前中、地場産業として発展したキッコーマン野田工場を、午後、関宿城博物館と関宿水閘門や水塚を見学しました。博物館では、学芸員の益子さんやボランティア解説員の上原さんに熱心な解説をしていただきました。

関宿水閘門は利根川から江戸川に入る水量を調整するために造られました。明治43年の洪水などを契機に利根川改修計画の一環として計画され、1918年着工、1927年完成。土木学会選奨土木遺産に認定されています。水門は現在も使われています。その事例をこの日は珍しく見る事ができました。この同じ日には和歌山県・紀伊半島が大雨による甚大な被害を受けましたが、関東地方の山間部にもかなりの降雨があり、数年ぶりに

この水門を閉じたのです。川底側を一部だけ開けているので水が激しく吹き出していました。

この後、博物館から数キロ離れたお宅で水塚を見せていただきました。須賀さん宅の水塚は博物館での再現のモデルになっています。壁は板張りになっています。もうひとつお宅の水塚も水田からの比高が3メートルはありそうで、この地域のかつての水害の脅威をまざまざと感ずることが出来ます。

全員で21名。たくさんの参加をいただきました。

(筑井信明)



(関宿城博物館前で記念撮影)

つむじ銀杏で街あわせ

& いろは遊学館ふれあい祭り

● 9月11日(日)に志木ニュータウンぺあもーる商店街で開催された『つむじ銀杏で街あわせ』で展示を行いました。これはニュータウンに住む女性5人のグループ『たてのよこいと』の発案による企画で、高齢化や不況で目立ってきた空き店舗を利用し、地域にすむ子どもや大人が出合い、集い、楽しみ、商店街を盛り上げようとの企画です。今年で3回目になりますが、今回は新たに音楽サークルの参加や東日本大震災チャリティ企画等も加わり、9月10日に各1回開催されました。当会では『身近な自然移動博物館』として、出前水族館と身近に見つけた虫こぶ・虫の抜け殻・ハチの巣・イモムシ等の展示を行いました。実行委員として企画にも参加しました。

● 10月15・16日にはいろは遊学館の『ふれあい祭り』が開催され、いつもの出前水族館のほかドングリ工作、宗岡地区水塚調査の報告とし

て新たに制作したA3判20枚のシートを展示しました。この水塚調査展示資料は10月22・23日にぺあもーるで開かれた建築学会埼玉支所主催の『住まい・まちづくり交流展』や11月13日に朝霞県土整備事務所で開かれた『黒目川・秋の川まつり』でも展示し好評でした。(天田 眞)



つむじ銀杏で街あわせの展示 (写真：天田)

10/30
(日)

新河岸川ぶらり散歩

志木から朝霞水門まで ～秋を歩く～

いろは橋から下流のコースで、旧村山快哉堂→新河岸川三代の堤防→新河岸川旧河道→黒目川合流点→朝霞水門→朝霞調節池と、約10kmを天田代表の説明を聞きながら歩きました。

今回も、いろいろと印象に残ることや知ることがありました。新河岸川左岸の赤野毛排水機場で汚れた水路を見ているとき、突然カワセミが飛んできました。その先では、24年前に新聞で大きく取り上げられた有害化学物質施設の有害物質が埋設された場所であることを知りました。そこまで行く途中の道の脇や大型ゴミの処理場の周辺にはテレビ、掃除機等のゴミが不法投棄されていて、環境が良くありませんでした。

朝霞水門は、洪水時の新河岸川と荒川の増水のタイミング差を利用して、新河岸川が増水したときにゲートを開き新河岸川の水を荒川へ放流、荒川の水位が上がってきたらゲートを閉じ、逆流を防ぐ施設であると知りました。また、朝霞調節池

は、新河岸川左岸に隣接して設けられ、河川との間の堤防を一部低くして(越流堤)、洪水時に川の水を溢れさせて貯留する施設で、2004年に完成しています。

このような施設のおかげで、上流である志木市など流域では、洪水時に水が溢れることが少なくなりました。(山口美智江)



(写真：毛利将範)

斜面林からの報告

過去にも報告しましたが、当会は『いろは親水公園こもれびのこみち』と『西原ふれあい第三公園』で清掃・剪定・下刈等の管理を行っています。9月21日の台風21号では大変な強風が吹き荒れ、こもれびのこみちでは斜面の原木が1本倒れ、西原第三公園では3年前に公園化工事で植えた木が数本傾いたり、風で折れた大量の枝葉が道路に散乱しました。ここは斜面の下が道路になっているため強風が吹く度に後始末に追われます。22日の朝から道路上の枝葉を集め、市の道路公園課がトラックで回収、23日には委託業者が専用車を使ってきれいに道路清掃を行いました。

こもれびのこみちでは、隣接の老人福祉施設との間の散策路に沿って植えられていたササが、9～10月頃、何者かにより大幅に根元から刈り取られました。荒っぽい刈り方で、刈ったササは無造作に積み上げられていました。付近では、樹木

をあちこち切った形跡もありました。どのような意図かわかりませんが、公園で勝手にこうしたことはできません。公有地であれ私有地であれ、所有者・管理者の許可なくこうしたことを行うのは器物損壊にあたります。現場には道路公園課により警告看板が立てられました。（天田 眞）



こもれびのこみちでササが刈られた現場と看板（写真：天田）

こどもとおとなの自然塾について

こどもとおとなの自然塾は10数年前から当エコシティ志木と（財）埼玉県生態系保護協会志木支部が主催者になり、志木市立教育サポートセンターの後援を頂いて実施しています。

市内で自然が残されている柳瀬川をフィールドに、こどもとおとなが直接自然に触れて、豊かな心を育み、自然を守ることの大切さを知ってもらうことを目指しています。

春4月には「春の野草を見てみよう」、夏7月には「お魚と遊ぼう」、秋9月には「秋の夜に虫の声を聞こう」、そして冬2月には「冬の渡り鳥を見てみよう」の4つのイベントを実施しています。以前は上記4つに加えて、5月に「ツバメの子育てを見てみよう」と、8月に「トンボとチョウを見てみよう」を実施していましたが、「ツバメの子育て」は気候の変動からか、実施時期とツバメの子育ての時期が一致しないことが多くなったことから現在は行っていません。それでも柳瀬川駅では子育てのためにツバメの巣の下に糞を受ける台を設けてくれましたし、ペアモール商店街でも暖かく子育てを見守って頂けるようになりま

した。

最近のこども達は、塾やお稽古事に忙しいようで「お魚と遊ぼう」を除いてはこどもの参加が少ないのが悩みですが、観察会中心では今ひとつ魅力に欠けるのも事実です。そこで、今後は少し遊びを取り入れたものをと、11月に「**ドングリと落ち葉で遊ぼう**」を企画しました。当日は天候が悪く、残念ながら中止になりました。来年は雨天でも出来るように部屋を確保したいと思います。

また、いろは親水公園の新河岸川が埼玉県の水辺の再生100プランの事業の対象になり、来年の3月に完成しますので夏から秋にかけて「**虫捕り**」を中心にしたイベントを企画する予定です。

（山崎光久）



ドングリの工作（作：田村キミエさん）

小学校の総合学習等の講師をしています

志木第三小 3年生 約85名 9月に1回
志木小学校 5年生 約120名 10月に1回
宗岡第三小 5年生 約55名 6月に1回、
10月に2回、計3回
志木小学校エコクラブ 9～11月に5回

柳瀬川の自然や環境を学ぶ総合学習は、富士見橋の左岸側の下流で実施しています。大抵は川に入るグループと植物や野鳥・昆虫などを調べるグループの二つに分かれて、交代で両方を体験するようにしています。川に入って魚を捕り、捕った魚の名前を調べるのは大変人気があります。捕れる魚はウキゴリ、ヌマチチブ、ギンブナ、クチボソなどで、その他ヌマエビやテナガエビ、トンボの幼虫のヤゴなども捕れます。植物や野鳥・昆虫のグループは主に三つのことをテーマにしています。一つは「ゴミは人間がいるから出るので、自然界にはゴミはない」ことで、生態系ピラミッドや食物連鎖の勉強。二つ目は、アレチウリやオオ



志木小学校の総合学習のようす

ブタクサ、セイバンモロコシなどの大型外来植物について、三つ目は野鳥に餌を与えないことです。

志木市内は荒川、新河岸川、柳瀬川の三つの川の流域を除いてはほとんど緑が残っていません。環境学習を通して、こどもたちが水の循環や豊かな自然の大切さを学んでくれたらと願っています。

(山崎光久)

11/5(土) 平成23年度 新河岸川流域川づくり懇談会



新河岸川流域に関わる埼玉県庁の各部署（水辺再生・総合治水・朝霞県土・川越県土・飯能県土等）と市民団体等との懇談会で、毎年50人以上が参加し、今年で9回目となります。

懇談会は、①年度内の工事説明、②行政と市民の勉強会、③行政と市民の意見交換会の3部構成で行われています。

志木市での年度内の工事は、新河岸川・柳瀬川合流点付近の水辺再生事業と、柳瀬川の河道掘削が予定されています。

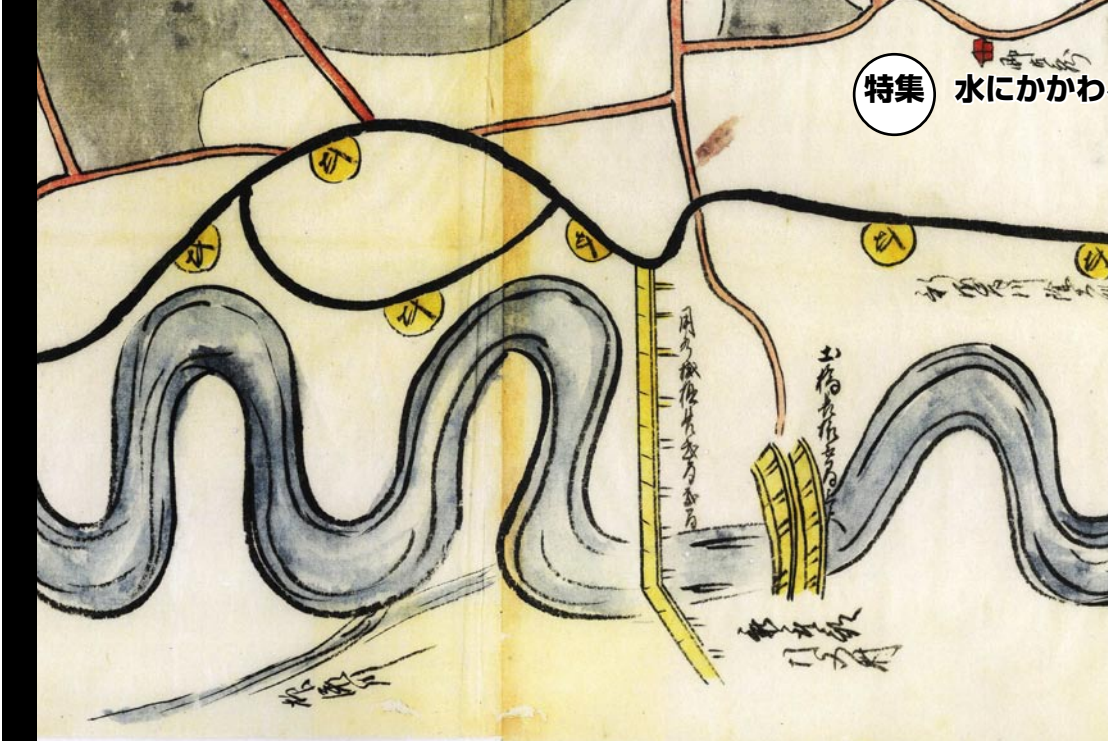
勉強会では、県庁OBの長孝弘氏（東松山淡水

生物研究所・所長）による魚道の講演と、東松山県土からの都機川と槻川の水辺再生事業の事例紹介がありました。

長氏の講演では、「落差工では木工沈床やふとかご（じゃかご）、丸太などを利用して簡易魚道も作れること」、「現在の河川設計は行政主導ではなくコンサルタント主導になっていること」、「人工林（スギ・ヒノキ）の増加によりサンショウウオが減少していること」、「大久保浄水場の処理では、アンモニア等生活排水の処理がしきれないこと」などが興味深かったです。

意見交換会では、埼玉県内各地で行われている水辺再生事業について、「維持管理が問題」、「意見交換・合意形成等の準備不足」、「計画通りの効果が得られていない」などの意見が出されました。その他、「落差工を無くす川づくり」、「水質の改善による清流復活」、「河川内での植樹基準」、「天然河岸（河畔林）の保全」などの提案も出されました。

(伊藤智明)



境橋付近の古絵図（部分）〔天保 13 年（1842）〕（尾崎征男氏蔵）

境橋（引又橋）

尾崎古美術店

尾崎征男

志木駅より本町通りを抜け 1.5 キロ、市役所手前の橋が栄橋（柳瀬川）で、つぎの橋がいろは橋（新河岸川）である。更に 2 キロ程進むと秋ヶ瀬橋（荒川）に至る。

かつては、現在の栄橋の下流約 100m の場所に「境橋」が架かっており、いろは橋は無かった。

境橋は武蔵野台地がせり出した先端の位置に架かり、長さ 15 間 3 尺（28.18m）幅 2 間（3.64m）であった。付近一帯は荒川沖積地でその低地の中を新河岸川は蛇行して流れ、少しの長雨でも洪水が起きるため大正 11 年新河岸川改修工事が始まり、昭和 5 年に今の流れと変り昔の面影は失われてしまった。

その昔、この市役所付近で柳瀬川と新河岸川が合流し、その下流に架かっていた橋が「境橋」である。境橋（引又・宗岡村境に架る）は別名引又橋と呼ばれ、近くには、野火止用水を宗岡の地に流すための伊呂波樋も掛かり、下流には、引又河岸場があり、賑わいある場所であった。

そもそも、境橋は奥州・甲州街道の橋で、この地方の重要な橋ではあるが、橋の立地する場所は新河岸川の九十九曲と呼ばれる流れの中に架かるため、少しの出水でも被害が発生、架けては流され流されては架け替える結果、多くの村民の負担となり維持費用で争いが絶えなかった。

ここに、その橋の歴史を辿ってみる。

橋の成立年は不明である。最初に記録に現れるのが元和 9 年（1623）。以前は土橋で架かっていたと記されており、元和の修復により板橋構造に変わった。

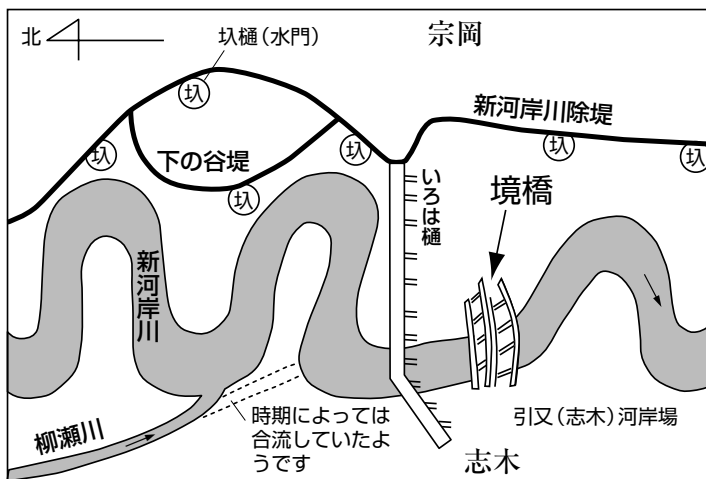
橋は頻繁に起る出水により洗われ、流されたり壊されたりは、ほぼ毎年の事で、その小普請は橋元村（引又・宗岡村）で修復していた。大修理の時は、街道沿線の村 27 ヶ村（橋組合）で当り、官費で修復されていた。元和の架け替えから 23 年後の正保 3 年（1646）の架け替えには 36 ヶ村で修復に当たったといわれる。その要因は寛永 15 年（1638）川越東照宮再建の建築資材の運搬に舟運が使われるようになり、新河岸川河岸場の開設による流域の村の加村であった。

更に、9 年後の承応 4 年（1655）、橋の大破により 36 ヶ村が官費で修復に当たっている。

しかし、延宝 2 年（1674）の大破のとき大事件が発生した。



役所（幕府）より 36 ヶ村宛の書状が届く。そこには「この度の修復費用は 36 ヶ村が石高に合わせ負担せよ」の命令書であった。直ちに 36 ヶ村は評定所に訴状を持って訴え出た。が、なんと



左の古絵図の解説図（尾崎氏筆をもとに作図）



明治 39（1906）年当時の境橋の位置図
[大日本帝国陸地測量部測量図より]



かつての境橋上流に架かる「米橋」を下流より望む
[2010年8月1日撮影 by Mouri]

関係者 100 名が牢屋に閉じ込められ強制的に橋修復金の負担を仰せつかった。これを「橋課役」と呼ぶ。

更に 16 年後の元禄 3 年（1690）にも橋は大破。毎回の通り役所に破損を届け出る一方、橋組合へ負担金の通知を出したところ、凶作続きで修復金など払えないと断られた。橋元村は奉行所に訴え出たが、聞き入れられず、36 ケ村の負担で実施された。更に正徳 1 年（1711）に破損修復が行なわれた。

享保 10 年（1725）3 月、橋が大破した。毎回の通り 36 ケ村に相談したところ、橋組合の内 25 ケ村が承服できないと言うので、橋元村は江戸町奉行に訴え出たのであった。

が、25 ケ村の内 11 ケ村が対抗訴訟を大岡越前守に届けたことから大事件となった。しかし、修復は急ぐ必要があるからか、6 月には江戸南町奉行所から裁定が下りた。裁定は、いつもの管理は橋元村で行っているからといえども、今後 36 ケ村と同様に石高をもって負担するように、との申し渡しであった。以来橋組合は橋元村の引又・宗岡両村も加わり 42 ケ村となる。



その後の記録は不明であるが、寛政 11 年（1799）破損修復、更に文化 5 年（1808）の修復には高欄付き板橋として完成をみたが、5 年後の文化 10 年（1813）にまた大破。

たび重なる修復金の捻出に困り、今回は板橋構造で課役金を集め建設費の少ない土橋構造で施工したい。ついては、差額金は役所に貸し付けたい。との願い出を届け、承認されている。果たしてその後の運用については不明であるが、橋は完成をした。



橋の歴史の中で不思議なこともある。天保 13 年（1842）、橋は火災により焼け落ちたと記録は伝えるが…、詳細は不明である。

木造橋の寿命は 30 年と言われ、境橋の永い歴史は、まだまだ不明の部分があり資料の発見に努め、そこに暮っていた村人達の苦難苦労を掘り起こし、感謝したい。

金子秀樹の 農業日記 < 12 >

今年は、3月11日の東北大地震・津波・原発事故と災害で始まった荒川河川敷の稲作ですが、その後の5月末の台風2号、9月初めの台風12号とハラハラドキドキ続きでしたが、何とか終わりました。

我家の米の収穫量は、5月の低温が響いたようで例年より1割減、くず米が例年の3倍増となりました。宗岡全体でも米の収穫量減、くず米増となっています。

例年なら稲作の終わった荒川河川敷は、静かなはずなのですが、今年はアザラシのあらちゃんが出現してにぎわっています。いつも閉鎖されている災害用ヘリポートも臨時の駐車場となっています。

稲作の終わった田んぼを耕していると、9月にはイタチ（見たのは子供の頃以来です）、10月にはタゲリが来ました。今年は、もう耕しませんが、来年の耕作時には、また多くの野鳥が寄ってくると思います。

さて、我家の農作業も冬野菜を作付けし、大豆の収穫で今年の農作業も終わりです。

今年の大豆の収穫には、足踏み式脱穀機を使用しました。収穫は3時間程度で終わりましたので、来年もこの方式で行う予定です。

これから天日干しをして虫やくず大豆をより分けると大豆の収穫量は、15Kg程度になると思われます。例年と同じぐらいです。

ここで、私がこれからの時期、天気が良いときによく行く場所があります。

それは、荒川の堤防です。これからの季節、荒川の堤防に立つと東京（南）方向にスカイツリー、大宮（北東）方向にさいたま新都心のビル街、志木駅（西）方向に秩父連山・富士山、上越（北）方向に雪を被った上越の山々が見え、ちょっと寒いですが私のお気に入りの場所です。元旦には、日の出の写真を撮る人もいます。



あらちゃんを見に集まった人たち



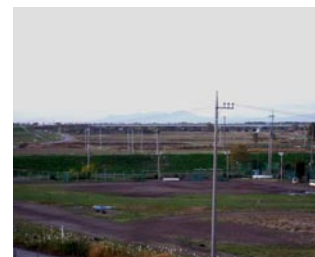
足踏み式脱穀機



タゲリ（10月）



さいたま新都心ビル群（北東）



上越の山々遠望（北）



スカイツリー（南）



夕日の富士山（西）



夕日の秩父連山（西）

《鳥類》

コガモ (3) → 9月19日 (日) 柳瀬川で [柳瀬川ウオッチング]

タシギ (1) → 10月16日 (日) 水谷田んぼで飛び立つ [柳瀬川ウオッチング]

《昆虫》

温暖化に伴ってやってきた昆虫2種を初めて発見しました [天田眞]

クロコノマチョウ (1) → 9月9日 (金) 志木ニュータウン東の森壺番街

クロメンガタスズメ (幼虫1) → 9月25日 (日) 西原ふれあい第三公園でヒョドリジョウゴに



クロコノマチョウ (9/9)
[天田眞]



クロメンガタスズメ (9/25)
[天田眞]

《魚類》

10月29日 (土) に村山快哉堂の脇で天田さんや小林さん (朝霞)、金澤さん (県庁) などと一緒に、以下のもの等が取れました [伊藤智明]

仔アユ (孵化したばかりのアユ)

カムルチー (ライギョ / 要注意外来生物)

ギギ (西日本のギバチ仲間 / 国内移入種)



アユ調査の様子 (10/29) [天田眞]

環境 ひとくちメモ (22) 伊藤 智明

「聞き書き甲子園」

きこりや造林手、炭焼き、漁師や海女、船大工など、森や海・川に関わる分野で様々な経験や技術を先人たちから受け継いでいる“森や海・川の名手・名人”を、日本全国の高校生が訪ね、その知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」し、記録する活動を「聞き書き甲子園」といいます。森の名手・名人は、長編ドキュメンタリー映画「森聞き」にもなっています。

今年度 (平成23年度) の聞き書き実行委員会は、農林水産省、文部科学省、公益社団法人国土緑化推進機構、社団法人全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会、NPO 法人共

存の森ネットワークと幅広い団体で構成されています。

農林水産業 (一次産業) 人口の減少と機械化が進む現在、自然を相手に手作業で仕事をしてきた名手・名人たちの知恵や技術を記録することは、本当に貴重な経験になることと思います。こうした活動は、全国規模だけでなく、地域毎にも広がってほしいです。



長編ドキュメンタリー映画「森聞き」

〈参考〉

聞き書き甲子園ホームページ <http://www.foxfire-japan.com/>

☆会員状況

2011 年度更新済み会員 (11/20 現在)

個人正会員 47 (新入会 3)

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域 NPO 連絡会

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まると博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

宗岡の水塚 今後の取り組み考

〈志木まると博物館河童のつづら〉

「水塚の文化誌」を纏めたことも契機となり、宗岡の水塚を象徴とする水防に関する先人の知恵や暮らしの痕跡、現在の治水など、今まであまり具体的に意識されてこなかったものが次第に認知されてきました。

歩く会や学習会、視察などでの見学会が開かれることも多くなりました。当会でも「水塚の文化研究会」というグループを中心に今後さらに調査や学習会をすすめ、「志木まると博物館河童のつづら」の具体的な展開により、まちの活性化に役立てる活動につながればと考えています。

現在、水場景観重要文化的景観の国選定となった群馬県板倉町を訪問する予定で、準備を進めています。

板倉町には、利根川と渡良瀬川との合流域に形成された広大な低湿地と自然堤防が展開しており、宗岡と同じように、古来より大水の害と益を受けながら、生活を営むための様々な工夫が行われてきました。板倉町の事例は、今後、宗岡の水塚を考える上でも大変良い参考になると思いますので、ご期待ください。(毛利将範)



揚舟を観光に活用 (板倉町 HP より)

甲虫は昆虫の中でも最も種類が多く日本だけでも 7000 種もいるそうです。成虫の体の表面が硬くよろいの役目をしていて、背中が鞘翅（しょうし）と呼ばれる硬くなった 2 枚の前翅で覆われ、その下に薄い膜の後翅が畳み込まれています。甲虫の中で代表的なコガネムシの仲間は、長円形で背中が盛り上がった体、先端が数本に分かれたブラシ状の短い触覚、棘の生えた足、といった似たような姿（角のあるカブトムシの雄など例外もあり）で、金属光沢のあるものもいます。成虫は夏を中心に現われ幼虫で越冬します。成虫には昼行性・夜行性があり、葉を食べるものが多いですが、カナブン・カブトムシのように樹液をなめるものや、ハナムグリの仲間のように花の蜜や花粉を食べるものもいます。幼虫

は白いイモムシ状の虫で土の中で暮らしますが、植物の根や腐葉土を食べます。また、センチコガネの仲間は成虫・幼虫ともに動物の糞を食べています。

私が一番目にするのはマメコガネで、マメ科植物等の葉を食べる害虫として知られますが、私の家庭菜園ではモロヘイヤなども食べています。畑を耕すと体を U 字型に曲げた幼虫が出てきます。夜行性で明かりによくやってくるのがアオドウガネで本来は南方系だったようですが、今は関東で普通にいます。

最近では外来生物の侵入が問題になっていますが、日本の在来種のマメコガネは 100 年ほど前にアメリカに渡り大繁殖し、農作物に大きな被害を与える外来種として「ジャパニーズビートル」と呼ばれ、問題になっています。



腐葉土の中には巨大なカブトムシの幼虫（西原斜面林で）



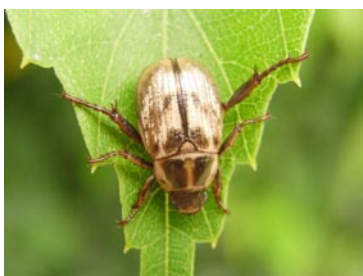
樹液にカナブンや緑色のアオカナブンが群らがる。金属光沢あり 23 ~ 29 mm



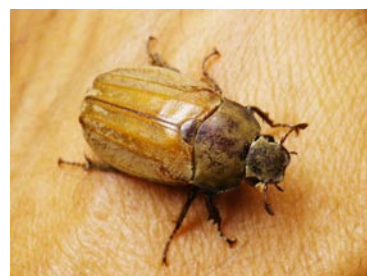
アオドウガネはきれいな緑色で鈍い金属光沢あり 17 ~ 22 mm



マメ科植物等の葉を食べる、野菜の害虫のマメコガネ 9 ~ 13 mm



背中に模様がある小型でかわいいセマドラコガネ 8 ~ 14 mm



薄茶色で全身に微毛があり粉をふいたようなコフキコガネ 25 ~ 31 mm



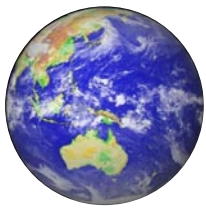
シロテンハナムグりは花よりも樹液に集まる。金属光沢あり 20 ~ 25 mm



花粉や蜜を食べるコアオハナムグりは受粉に役立っている 11 ~ 16 mm



糞に集まるセンチコガネ。紫色で金属光沢がある 14 ~ 20 mm



地球と日本の自然 (3)

「ワシントン条約」ー絶滅のおそれのある野生動植物の国際取引ー

加藤 健二

「ワシントン条約」は、野生動植物の国際取引、採取、捕獲を抑制・監視し絶滅の動植物を保護することを目的とする条約で、1973年にワシントンで採択されました。

年間4万種の野生動物が絶滅しつつあると言われ、哺乳類の23%、昆虫類32%、淡水魚類36%、両生類34%、鳥類13%などが絶滅種とみなされ「レッドデータブック」にリストされ国際的な管理を目標としています。(WWF資料)

今回、ワシントン条約を中心に私たちの日常生活に接点があり、無意識のうちに生物を死滅に追いやったり、生態系の秩序を乱すような事例を見ていきたいと思います。

べっこう、さんご、象牙などはアクセサリや生活用品に加工され、動物の毛皮、ワニ、ヘビなどは衣類やハンドバックとなりますが、多くがワシントン条約に抵触しています。

カメ、昆虫、チョウ、爬虫類などはペットや標本としても輸入され売買されています。それらのすべてが条約に抵触するわけではありませんが、販売業者はワシントン条約による禁止動物や商品であることで価格を上げるケースがあり、また購入者も絶滅危惧種などの知識が無く希少価値を求め購入に至る場合があります。これらの動植物の端緒は密猟によるものが多く、また取引が多国間でされるため実体把握が困難なのが実情です。

さて、象牙を取るために象はこの50年で300万頭から50万頭に減少しました。



象の捕獲者にとっては現実問題として貧困が要因であるので、密漁防止を目的として頭数を制限した上、ワシントン条約で輸出を許可し、それらの収益を学校や象の管理に充てるような試行的な政策もなされています。

植物の場合は、乱獲だけでなく他の農作物の価格を要因として作物の変更や農地の転換がなされ、持続的な自然維持の困難性が多くの国で発生しています。また話題を広く見ると日本は木材の国内自給が可能です。現実には国内消費量の70%も輸入しており、世界的な砂漠化の要因ともなっています。

ワシントン条約、レッドデータの枠を超えた話題も入れましたが、地球上の生物絶滅増加や生態系混乱の急速な進行は、けっして遠い他国の問題でなく私達の日常生活に結び付いた事例であることを書きました。

紙面の関係から結論を急ぐこととなりますが、世界的な自然の一部が、実は日常の生活の中にあることに関心を持ち、これ以上の悪化にならぬよう見守りたいと思います。

編集後記

◇今年3.11の大震災に始まり、国の内外でも様々な矛盾が吹き出し、今までの暮らしの延長線上だけでは解決できないような試練に向き合っています。

◇当会でも、環境・安全・暮らしなどをトータルにとらえることを今まで以上に意識しながら個々の活動を地道に展開し、地域の未来に貢献できればと思います。(梟)

エコシティ志木通信

第64号 2011年12月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

エコシティ志木の
イベントカレンダー

2011年 2012年
12月→2月



9月4日「千葉県立関宿城博物館見学会」での記念撮影
千葉県野田市のキッコーマン野田工場、関宿城博物館、水閘門、水塚などを見学しました

会員募集中



親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう



◆いろは親水公園こもれびのこみち斜面林の手入れ&自然観察

＜主に 奇数月＝第二土曜日、偶数月＝第四日曜日＞

【日程】12月25日（日）／1月14日（土）／2月25日（土）／3月10日（土）

※2月は第四土曜日となりますのでご注意ください。

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋
（志木市本町2丁目／ルストホフ志木の隣）

【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。

◆西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の手入れ&自然観察

＜主に 奇数月＝第四日曜日、偶数月＝第二土曜日＞

【日程】12月10日（土）／1月22日（日）／2月11日（土）／3月24日

※3月は第四土曜日となりますのでご注意ください。

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分に西原ふれあい第3公園の中央にあるベンチ付近

【内容】西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の清掃・下草刈り・急斜面保全等の作業を行います。



◇上記の共通項目

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【費用】どなたでも無料

【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【協力】志木市道路公園課 【問合】048-471-1338（天田）

■調べてみよう



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング

＜主に 毎月第三日曜日＞

【日程】12月18日（日）／1月15日（日）／2月19日（日）／3月18日（日）

【時間】いずれも9時～12時（雨天時は中止）

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町3-2-2）

【内容】※種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。

（1）野鳥：柳瀬川に沿って約4km 弱を散策しながら調査します。

＜持物＞双眼鏡、あれば野鳥図鑑 等

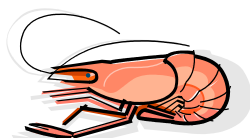
（2）川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。

＜持物＞川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑 等

【費用】200円（会員・中学生以下は無料） ※家族は全員で1名扱い

【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【問合】048-471-4275（毛利・夜間）



◆埼玉県内一斉ガンカモ調査 <柳瀬川エリア>

- 【日時】 1月8日（日）9時～11時頃（雨天時は順延1/9（月・祝））
【集合】 9時に志木大橋のたもと（下流の右岸側／テニスコート裏）
【コース】 志木大橋～柳瀬川・新河岸川合流点まで
【持物】 双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑 等
【費用】 どなたでも無料
【備考】 種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。
【主催】 （財）埼玉県生態系保護協会 【柳瀬川担当】 志木支部
【協力】 NPO 法人エコシティ志木 【問合】 048-473-4909（山崎）



■自然と文化を楽しもう

◆こどもとおとなの自然塾（4） 「冬の渡り鳥を見てみよう」

- 【日時】 2月12日（日） 9時～11時頃（雨天時は中止）
【集合】 東武東上線・柳瀬川駅前サミット前の「円形広場」
【持物】 双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑 等
【申込】 不要
【費用】 200円（会員・中学生以下は無料） ※ 家族は全員で1名扱い
【主催】 NPO 法人エコシティ志木 & （財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
【後援】 志木市立教育サポートセンター
【問合】 048-473-4909（山崎）



◆新河岸川ぶらり散歩 ～朝霞水門から北赤羽まで～

- 【日時】 3月20日（火・祝） 8時45分～15時00分頃（雨天時は中止）
【集合】 8時45分に東武東上線「朝霞駅」東口
8時58分発志木駅東口行（積水化学・北朝霞駅経由）の東武バスで「根岸」まで行きます。
【主なコース（予定）】
朝霞水門→越戸川合流点→埼玉県新河岸川水循環センター（下水処理場）対岸から放流口
→白子川合流点→東京都新河岸水再生センター（下水処理場）付近→北区に残る水塚
→JR 埼京線「北赤羽駅」（新河岸川の上にある駅）
【案内】 天田真（NPO 法人エコシティ志木代表理事／志木まると博物館“河童のつづら”館長）
【持物】 お弁当、飲み物、交通費（バス代・電車代）、歩きやすい服装 等
【費用】 300円（会員100円、中学生以下は無料）
【主催】 NPO 法人エコシティ志木 & （財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
【問合】 048-471-4275（毛利・夜間）



■関連行事

◆志木市民まつり

- 【日時】 12月4日（日）
【会場】 志木市民会館 駐車場 ほか
【内容】 志木まると博物館河童のつづらパネルや柳瀬川・出前水族館を出展します。
【主催】 志木市民まつり実行委員会

◆新河岸川流域フォーラム

- 【日時】 1月21日（土）
【会場】 浮間地区荒川防災ステーション（東京都北区）
【内容】 志木まると博物館河童のつづらパネルを出展します。
【主催】 新河岸川流域川づくり連絡会、新河岸川流域総合治水対策協議会

会員募集中！！ （詳細は裏面をご覧ください。）

活動記録 (8月～11月)

◆8月◆

23日(火) 志木市コミュニティ協議会委員会
23日(火) 8月運営会議
28日(日) こもれびのこみち月例作業
28日(日) エコシティ志木通信印刷発送作業

◆9月◆

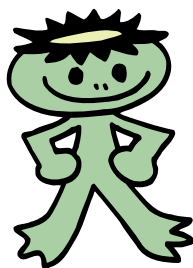
4日(日) 水塚研究会千葉県立関宿城博物館見学
10日(土) こもれびのこみち月例作業
11日(日) つむじ銀杏で街あわせ(べあもーる商店街)
12日(月) 志木小ビオトープ手入れ/エコクラブ
13日(火) 9月運営会議
18日(日) 柳瀬川ウォッチング/富士見市民大学魚捕り
18日(日) 外来植物駆除作戦
25日(日) 西原ふれあい第3公園月例作業
25日(日) 自然塾・秋の夜に虫の声を聞こう
27日(火) 志木三小柳瀬川総合学習

◆10月◆

2日(日) 埼玉県生き物モニタリング調査中間報告会
2日(日) 水塚の文化研究会定例会
6日(木) 広報部会
8日(土) 西原ふれあい第3公園月例作業
11日(火) 10月運営会議
12日(水) 宗岡三小柳瀬川総合学習(第2回)
15日(土) いろは遊学館ふれあい祭り
16日(日) 柳瀬川野鳥ウォッチング
16日(日) いろは遊学館ふれあい祭り
17日(月) 志木小柳瀬川総合学習
17日(月) 志木小エコクラブ
21日(金) 志木市コミュニティ協議会委員会
22日(土) 建築学会(埼玉) まちづくり交流展展示
23日(日) こもれびのこみち斜面林月例作業
23日(日) 志木おやこ劇場総会
24日(月) 宗岡三小柳瀬川総合学習(第3回)
24日(月) 志木小エコクラブ
29日(土) アユの稚魚調査(柳瀬川栄橋下)
30日(日) 新河岸川川ぶらり散歩(志木～朝霞水門)
31日(月) 志木小ビオトープ手入れ/エコクラブ

◆11月◆

5日(土) 新河岸川流域川づくり懇談会(埼玉県)
8日(火) 新河岸川流域川づくり連絡会(国交省)
12日(土) こもれびのこみち月例作業
12日(土) 新河岸川水辺再生工事説明会(埼玉県)
13日(日) 黒目川・秋の川まつり展示
15日(火) 11月運営会議
16日(水) 志木市コミュニティ協議会理事会
20日(日) 柳瀬川・野鳥 & 川の生き物ウォッチング



NPO法人 エコシティ志木



エコシティ志木に入会すると

☆仲間といっしょに環境まちづくりを実践できます

各部会や行事に自由に参加できます

☆次のものを受け取れます

- ① 「エコシティ志木通信」 年4回
- ② 行事案内〈ハガキまたはe-mailで〉 毎月
- ③ 当会の発行物 無料または会員割引で

水と緑部会

まちづくり部会

広報部会

■正会員 年会費＝個人会員 2,400円※
団体会員 5,000円

■賛助会員(個人・団体)

会費＝年額 1口 5,000円

★入会方法

氏名、住所、電話番号を明記し、郵便振替等で年会費を納入してください。

〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

※ 同一家族の2人め以降は1,200円、同一家族の高校生以下無料。
年会費の有効期間は、4月～翌年3月末です。
10月以降に新入会の年会費は上記の半額です。

埼玉県NPO基金「団体希望制度」 寄付募集中

★寄付方法

1. エコシティ志木を指定して寄付できます
2. 環境など、活動分野を指定して寄付できます
3. NPOを広く支援するための寄付ができます

★寄付金の税法上の優遇措置

1. 個人 所得税・個人住民税が一定額控除されます
2. 法人 寄付金全額を損金に算入できます

詳しくは → **048-830-2839** (埼玉県NPO活動推進課)
<http://www.saitamaken-npo.net/>